

R 6 . 1 . 2 1 (日)

於：カルタックスおおむた集会室

三池典太光世の歴史を深掘り 刀剣講座

大牟田市立図書館 山田元樹

1. 三池典太光世とは

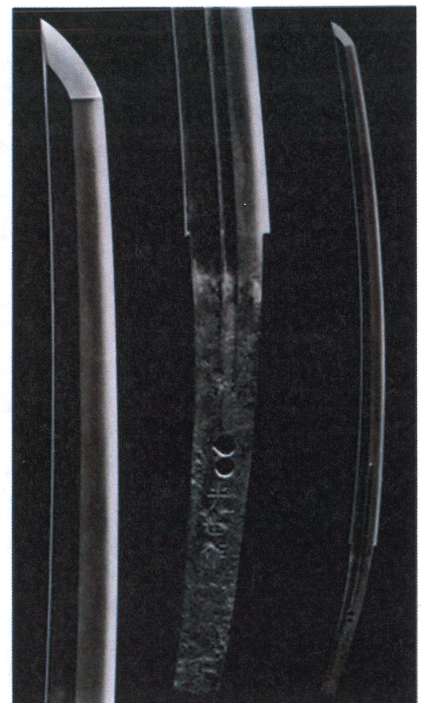
- (1) 平安時代後期 (承保頃：1074年)
- (2) 筑後国三池 (生地は筑後国三井郡国分村：現久留米市国分)
- (3) 大典太 (国宝 太刀 銘 光世作) 加賀藩主前田家伝来 (前田育徳会所蔵)
- (4) 造込：鑄造り丸棟
法量：長さ66.0cm 反り2.7cm
体配：腰反り姿 身幅広く中切先猪首に結ぶ
鍛：板目流れて柁となり、柔らかく感じられる肌合いをなし、白気映り立つ
刃文：小湾調の細直刃、ほつれかかり金筋入り、物打上二重刃ごころとなり小沸つく
帽子小丸
彫物：表裏に幅広く浅い棒樋を巧みに掻き流し、表に腰樋を掻き流す
茎：生ぶ、先浅い栗尻、鑢目勝手下がり、目釘孔二

2. 日本刀の歴史 (一例、もっと細分することもある)

- (1) 上古刀 (直刀 大刀 横刀) (蕨手刀 毛抜形太刀)
- (2) 平安時代後期～鎌倉時代初期 (古刀 太刀 小太刀 短刀)
- (3) 鎌倉時代中期 (古刀 太刀 小太刀 短刀)
- (4) 鎌倉時代後期 (古刀 太刀 小太刀 脇差 短刀)
- (5) 南北朝時代 (古刀 大太刀 太刀 小太刀 脇差 短刀)
- (6) 室町時代 (古刀 太刀 刀 小太刀 脇差 短刀)
- (7) 江戸時代前期 (新刀 刀 脇差 短刀)
- (8) 江戸時代中期 (新刀 刀 脇差 短刀)
- (9) 江戸時代後期～幕末期 (新々刀 刀 脇差 短刀)
- (10) 明治時代以降 (現代刀 刀 太刀 脇差 短刀)

3. 三池派・三池鍛冶の歴史

- (1) 平安時代～室町時代 (古刀期)
 - ①平安時代
大典太 (初代三池典太光世) 国宝
 - ②鎌倉時代
ソハヤノツルキウツスナリ 重要文化財
本妙寺短刀 重要文化財
 - ③南北朝時代



④室町時代

(2) 江戸時代 (新刀期・新々刀期)

(3) 明治時代以降 (現代刀)

4. 大牟田と三池

(1) 筑後国三池 (2) 大牟田は三池の一部

①「三池」は筑後国の郡名 ← 三毛 ← 御木

②筑後国の郡：三池、山門、三潞、八女、三井、浮羽 (明治29年：1896年以降)

八女← (上妻、下妻)、三井← (御井、御原、山本)、浮羽← (生葉、竹野)

③建久3年 (1192年) 3月13日三毛郡今山岳に一夜にて池三ツ出現す、其他不思議の事多しよりて鎌倉へ訴へ人皇82代後鳥羽院に奏聞し勅命により三池と改称す。(「大牟田市史 上巻」P466 三池氏系図より)

④公望私記にいわく。筑後国風土記にいう、昔は棟木一株、郡家の南に生ず。其の高さ970丈。朝日の影には肥前国藤津郡多良の峯を蔽い、暮日の影には肥後国山鹿郡荒爪山を蔽い云々。因って御木国という。後人訛りて三毛といい、今以て郡名と為す。(「大牟田市史 上巻」P348 筑後国風土記逸文より)

⑤景行天皇紀に、18年秋七月筑紫後国御木に到り、高田行宮におわします。時に僵れたる樹有り、長さ970丈。百寮其の樹を踏みて往来す。時に人の歌いて曰く、アサシモノ、ミケノサオハシ、マエツギミ、イワタラスモ、ミケノサオハシ、ここに天皇これに問いてのたまわく、是れ何の樹ぞ、一老夫有りていわく、是の樹は歴木なり、かつていまだ僵れざるの先、朝日の暉くに当たりては、則ち杵島山を隠し、夕日の暉くに当たりては阿蘇山を覆うなり。天皇のたまわく、是の樹は神木なり、故是の国を宜しく御木国と号すべし、と。(「大牟田市史 上巻」P349 新考景行天皇紀より)

5. 天下五剣

(1) 三日月宗近

(2) 童子切安綱

(3) 大典太光世

(4) 鬼丸国綱

(5) 数珠丸恒次

